

連合市民クラブ 津田加代子

1. 「キセラ川西せせらぎ公園」のプレーパークにみる課題とこれからの方向性について

プレーパークとは、従来の公園、既成のブランコ、シーソー、鉄棒などがあるような遊び場と違い、一見無秩序のように見えて、子どもたちが想像力で工夫して、遊びを作り出すことの出来る遊び場のことで、東京都世田谷区の羽根木プレーパークがオープンして以来、この言葉が日本でも広く知られるようになり、**子どもの安全の確保のために指導員を置いたりしている公園です**。かつて川西市でも、グリーンハイツの奥池公園（冒険公園とも呼んできた）ではそれに似た発想の、当時としては珍しい、子育てしていた頃にはよくでかけた公園もありました。今ではボール遊びのできない公園が多いとして、9月議会でも一般質問してきました。今回は、キセラ川西で、新しい切り口で、進めていこうとされている公園の取り組みがあることに高い評価をし、更なる効果を期待したいと考え、一般質問とします。

- (1) 「キセラ川西せせらぎ公園」にプレーパークを設置する経緯について
- (2) 「キセラ川西せせらぎ公園」のプレーパークの具体的活用と運営について
- (3) 人の配置・公園内に人の待機できる場の確保について
- (4) プレーパークの市民への理解と周知について
- (5) 今後、川西市としてのプレーパークを広げる方向性について

2. 「夜間中学」（中学校夜間学級）について

平成 25 年 6 月、文科省は『中学校夜間学級の充実・改善等への取組事業の委託』をし、平成 27 年 5 月、「中学校夜間学級における学習指導、生徒指導の在り方などについて調査研究を行い、その改善充実に資する。」と発表。事業の委託先として、夜間学級を設けている中学校を設置する市町村の教育委員会とするとしました。本市はこれに該当する事業は起していませんので直接調査などをしていくことにはならなかったと考えます。ですが、今現在、**不登校生**が増えている実態を考えると、卒業の許可を得て、卒業証書が授与されている『**形式卒業者**』のことを思う時、無戸籍の子どもの存在、学齢を超過している外国人などのことを含めて、「**学びなおし**」の必要性を個々人が感じた時に学べる学校として、**尼崎市で存在している意義を高く評価し、川西市在住者がこういった居場所に出会える機会をもっともっと示し、誘導していく必要があるのでは**と考え、一般質問をします。

- (1) 川西市から、他市の夜間学校に通っている生徒について

(2) 県内の夜間中学の行政間連携について

(3) 広報や相談体制について

3. 教職員の勤務と勤務時間の適正化に向けた取り組みについて

より充実した教育活動の実現に向け、すべての教職員が時間的・精神的なゆとりを持ち、心身ともに健康で、一人一人の児童生徒としっかりと向き合うために、兵庫県教育委員会が平成 25 年 2 月に策定した「教職員の勤務時間適正化新対策プラン」に基づき、川西市においては、2 つに重点をおき進めるとあります。

①【教職員定時退勤日の実施】と②【ノー部活デー】の実施です。

この 2 点を重点とした理由は、①平成 24 年度に兵庫県教育委員会が実施した「教職員勤務実態調査」結果からで、教員の平日 1 日あたりの平均労働時間は 10 時間 46 分となっており、各学校で平成 25 年度から、週 1 回以上の「教職員定時退勤日」を設定し、定められた時間に退勤するよう努めているとあります。②また長時間・長期間にわたる過度な部活動による弊害の指摘から、生徒には、ゆとりある生活の確保とスポーツ障がい等の防止、教職員には、生徒と向き合う時間を確保するために「ノー部活デー」と決め、各学校の実情に応じて設定し実施しているとあります。具体的には、ア. 平日は、最低週 1 回以上は部活動は行わない。イ. 土曜日・日曜日等の休業日は、最低月 2 回以上は部活動は行わない。また、試合やコンクールにより実施できなかった場合は、平日に代替日を設けると明記しています。以下について質問します。

(1) 平成 25 年度実施されて以来、今日までの川西市の実態について

①定時退勤日の設定とその実施状況と今後の課題とその計画について

②ノー部活デーの実施状況と課題について

ア. 「平日は、最低週 1 回以上は部活動は行わない」について

イ. 「土曜日・日曜日等の休業日は、最低月 2 回以上は部活動は行わない」について

また 11 月 19 日新聞各紙の報道＝大阪府教育委員会の「ノー部活デー」の取り組み実施＝に関して、川西市の考えについて

(2) 川西市教育委員会として、本文中の 2 点を確実に実施できるように

- ①具体的にどのようなことをされてきたのか
- ②実際の仕事量の軽減状況について
- ③研修会・出張の精選と削減について
- ④校長会で、どの程度の要請をしてきたかについて

4. 川西市の各小・中学校のエレベーター設備について

耐震化工事の早急なる実現を念じ、臭い・汚い・暗いと言われた3Kの学校のトイレの改修も耐震化工事に合わせてできるだけ数を改修でき、教育内容にかかる特別支援教育については、人材の育成と人材の必要の必要性が肝心と指摘し、エアコン設置をと続く教育施設設備の改修等々、この10年間、連続した、計画的な学校施設設備に係るご努力には、敬意を表します。加えて、中学校給食に寄せる課題解決もこれからです。一方、公共施設の再配置計画も示されてきました。地域の文化の灯としての学校の存在意義とともに、地域の災害時の避難所としては勿論、日ごろのコミュニティの活動の意義ある拠点として、ご高齢の方々にも学校にお越しいただける機会も増え、地域の中心となる活動の場ともなっています。そんな学校存在に賭ける期待を込めて、エレベーターの各小中学校への設置を早急にお考え頂きたいの考えで、今、質問として挙げました。市としての方向性を示した上で、バリアフリー化の公共施設として、進めてほしいという思いでおります。まずは計画を挙げて頂き、実施へと進めて頂けるよう期待しています。

- (1) 小・中学校へのエレベーター設置の考え方について
- (2) 急を要する小・中学校への設置を進めていくことについて